

法との関連が指摘されていることはよく知られているところである（綿貫 1982他）。

#### e. 三稜尖頭器

宮ヶ迫遺跡、小牧3 A遺跡で出土している。素材剥片を縦位に利用するものと横位に利用するものがある。特に5cmを越すような大型の石器に横位利用が特徴的にみられる。部分的な三面加工はみられるが、主流は二面加工である。三稜尖頭器の素材剥片を得るための石核というのはこれまで評価されておらず、今後の課題である。

### (3) IV期

#### ① 石器組成

石器組成の大きな特徴は剥片尖頭器の消滅である。ナイフ形石器は今峠型ナイフ形石器、切出形ナイフ形石器がみられる。瀬戸内技法については、西丸尾遺跡で瀬戸内技法関連の剥片が出土しており、影響が残る。粘板岩製の両面加工尖頭器も残る。基部加工ナイフについては小型化の傾向が見られる。三稜尖頭器は両面加工が特徴的となり、やや小型化（5cm前後）の傾向が見られる。西丸尾遺跡、前原和田遺跡XⅢ層石器群が該当する。

#### ② 石器製作技術

##### a. 基部加工ナイフ形石器

基本的にⅢ期と同じであるが、目的剥片がやや小型化する。

##### b. 切出形ナイフ形石器

前原和田遺跡の報告書から、「単設打面からの連続剥離により素材剥片を得るものと、求心状剥離あるいは打面転移石核から素材剥片を得るものとが存在」する。なお、前原和田遺跡では三稜尖頭器状の調整を行う一群が特徴的で、あるいはこの時期の特徴となるのかもしれない。

##### c. 三稜尖頭器

西丸尾遺跡、前原和田遺跡の三稜尖頭器の観察から、Ⅲ期同様剥片の縦位利用と横位利用とがみられる。ただし素材は寸詰まり剥片を用いているようである。稜上調整は必要に応じて施され、基部に平坦剥離を施す三面加工が特徴的にみられる。

##### d. 国府系ナイフ形石器

製品の出土はないが、西丸尾遺跡にて出土した横剥ぎ剥片について、瀬戸内技法に関連した西丸尾型の横長剥片として評価されている（宮田 1992, 2002）。「大型の剥片の腹面を打面とし、この剥片をはぎ取る前に打面調整を行い、打点部を稜状にし、その部分から打撃を行い剥片を剥離し」ている。

### (4) V期

#### ① 石器組成

粘板岩製の両面加工の尖頭器が消滅する。基部加工ナイフ形石器（4cm前後）、切出形ナイフ形石器（4cm前後）、台形石器（3.5cm前後）、三稜尖頭器（3.5cm前後）全ての器種に小型化の傾向が見られる。木場A-2遺跡、小原野遺跡、

帖地遺跡XⅢ層、前山遺跡Ⅶb層、宮ノ上遺跡<sup>8)</sup>が該当する。

#### ② 石器製作技術

##### a. 三稜尖頭器

Ⅲ、Ⅳ期同様剥片の縦位利用と横位利用とがみられる。素材剥片は製品から見る限りでは現在のところ一定の基準は見いだせないが、寸詰まり剥片が主となるようである。三面加工の割合が高くなる。粘板岩製の両面加工尖頭器が当期に消滅しているが、三稜尖頭器にその両面加工尖頭器の技術が反映されている可能性がある。

##### b. その他の石器

小型化以外に強いて特徴的な技術をあげるような資料が現在ないため特に現段階で述べることはない。

### (5) VI期

#### ① 石器組成

基部加工ナイフ形石器（2cm前後）、切出形ナイフ形石器（2.5cm前後）、台形石器（2cm前後）全ての器種にさらに小型化の傾向が見られる。西ノ原B遺跡では、三稜尖頭器が出土しているが、1点のみであり、現段階ではこの時期まで残るかどうかわからない。露重遺跡、耳取遺跡XⅢ層、西ノ原B遺跡、前山遺跡Ⅶa～Ⅶb層、帖地遺跡XⅡ層石器群が該当する。

#### ② 石器製作技術

小型の台形石器、ナイフ形石器

小型の石核から小型の不定形剥片を剥出し、フェザーエンドを残してブランティングを施す。剥片は非常に小さく、剥片の利用方向が一定でないため、目的剥片というのは存在しないと考えられる。ブランティングについては腹・背面両側からの加工が観察されるものも多く、台石上で潰すような技術が用いられている可能性もある。

### 5 石器の製作技術の推移について

これまでⅡ期～Ⅵ期各時期の石器製作技術についてのべてきたが、ここでは時期ごとのそれら技術のつながり、推移について、見通しをまとめてみたい。

これまで個々の石器について製作技術を述べてきたが、ナイフ形石器文化後半期の製作技術として大きく3つが存在すると考えられる。まず第1に、台形石器、切出形ナイフ形石器の目的剥片である寸詰まりの剥片を剥離する技術である。第2に、剥片尖頭器や基部加工ナイフ形石器に代表される石器の目的剥片である縦長剥片を剥離する技術である。第3に、国府型ナイフ形石器や、大型の三稜尖頭器、今峠型ナイフの目的剥片である横長剥片を剥離する技術である。全時期通じてみられるのは、寸詰まり剥片剥離技術であり、最も基本的かつ一般的な技術であると考えられる。これに対し、縦長剥片剥離技術と横長剥片剥離技術は一定期間に限定され、技術としては客体的、短期的なものである。当然個々の石器の石器製作技術を突き詰め